視覚シンボル：日本版PICの語彙増加

－意味明瞭度および日常重要度に関する調査－

The Revised Version of Pictogram Ideogram Communication:
The psychological assessment of semantic transparency and ecological importance on its 1071 symbols.

北神　慎司　・　清水　寛之　・　井上　智義
Shinji KITAGAMI, Hiroyuki SHIMIZU, & Tomoyoshi INOUE

京都大学　・　神戸学院大学　・同志社大学
Kyoto University　•　Kobe Gakuin University　•　Doshisha University

＜あらまし＞　視覚シンボルを用いた代替補助コミュニケーションシステム（AAC）のひとつである日本版PIC は，ユーザーの要望や，多様なコミュニケーション分野での活用の進展を踏まえて，新たに 647 個の語彙を追加し，総数で 1071 語の絵単語を有している．本研究は，すべての絵単語の基礎的なデータの収集を目的として，絵単語がどの程度わかりやすくその意味を表しているかという意味明瞭度，および，日常のコミュニケーション場面でどの程重要であると思われるかという日常重要度の 2 尺度について調査を行った．

＜キーワード＞ 視覚シンボル，絵単語，コミュニケーション，障害児(者)教育，異文化

1. はじめに

空港や駅などの公共施設では，例えば「公衆電話」や「エレベーター」などを示す視覚シンボルが数多く見受けられる．これらの具体的な事物を示す視覚シンボルは，ピクトグラムと呼ばれ，個人の使用する言語の種類に関わらず，その意味内容を容易に理解できることが大きな特徴の１つとなっている．したがって，ピクトグラムは，音声言語に依存しない非言語コミュニケーションの手段としても，その可能性を秘めていると考えられるが，その実例として，PIC(Pictogram Ideogram Communication)という視覚シンボルを用いたコミュニケーションシステムが挙げられる．

PIC は，特に，音声言語の使用が困難な人々のためにカナダで開発され，日本にも，文化的な側面を考慮し，いくつかの改良および変更を行った上で，日本版 PIC として藤澤他(1995)によって導入されている．その後，ユーザーの要望や，失語症や異言語間のコミュニケーション分野での活用の進展を踏まえて，新たに 647 個の語彙を追加し，現在では，総数で 1071 語に及ぶ図 1 の例のような絵単語を有している（藤澤，2001）．

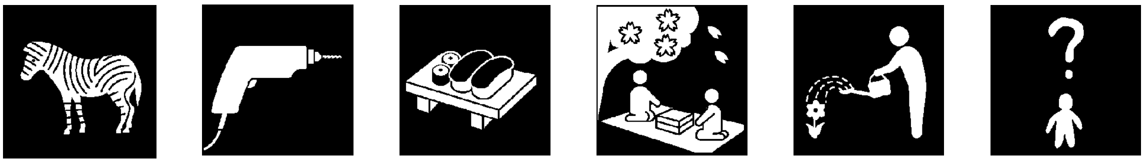
日本版 PIC で用いられている絵単語の基礎的なデータの収集は，清水・井上（1994）によって，当初の 424 語を対象に行われているが，本研究では，語彙増加によって，1071 語となった絵単語すべてを対象にして，再度，意味明瞭度および日常重要度という 2 つの尺度について，基礎的な心理データを収集することを目的とする．

2. 方法

調査対象者：大学生 450 名．

材料：現行の日本版 PIC で用いられている絵単語 1071 語を用いた．さらに，1071 個の絵単語を 119 語ずつ 9 つのブロックに分け，ブロックごと 9 種類の調査用冊子を作成した．

手続き：調査は，集団形式で，調査用冊子を配布し，各個人のペースで，「絵単語がどの程度わかりやすくその意味を表しているか」という意味明瞭度，および，「日常生活を送る上でどの程度重要か」という日常重要度について 7 段階で評定することが求められた．なお，9 種類の調査用冊子の割り当ては任意であり，各種類とも 50 名ずつの調査対象者が割り当てられた．つまり，調査対象者一人あたり 119 語の絵単語について評定を行うことになる．また，冊子は，



シマウマ　電気ドリル　お寿司　花見　水をやる　だれ

図 1 日本版 PIC で用いられている絵単語の例

表紙を除いて 6 ページで構成されるが，調査対象者ごとに，ページの順番はランダマイズされていた．

3. 結果と考察

1071 個の絵単語は，あらかじめ，カテゴリー分けされているが，図 2 から図 7 には，第 1 レベルにあたる 6 つのカテゴリーごとに，第 2 レベルの各カテゴリーの意味明瞭度と日常重要度の平均値を示した．

全体的な結果として，日本版 PIC で用いられている絵単語は，意味明瞭度，日常重要度のどちらもが比較的高く評定されることが示された．さらに，具体的な事物に関する絵単語は，意味明瞭度が高いことが確認された．

参考文献

藤澤和子・井上智義・清水寛之・高橋雅延 (1995) 視覚シンボルによるコミュニケーション：日本版 PIC ブレーン出版

藤澤和子 (2001) 日本における PIC の活用 藤澤和子（編著） 視覚シンボルでコミュニケーション：日本版 PIC 活用編 ブレーン出版 Pp.7-16.

清水寛之･井上智義 (1994) 日本版絵単語コミュニケーション・システムの開発－意味明瞭度および日常重要度に関する調査より－ 教育工学関連学協会連合第 4 回全国大会講演論文集, 357-358.

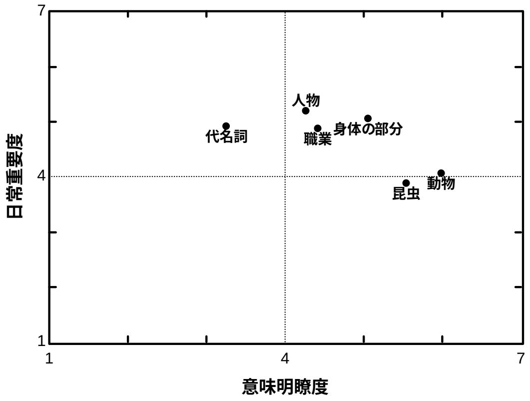


図 2 「生き物」カテゴリー

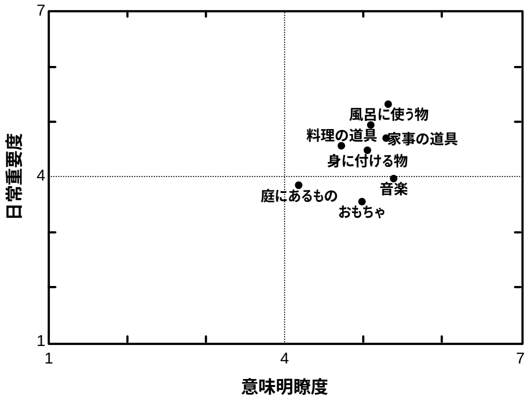


図 3 「物，道具」カテゴリー

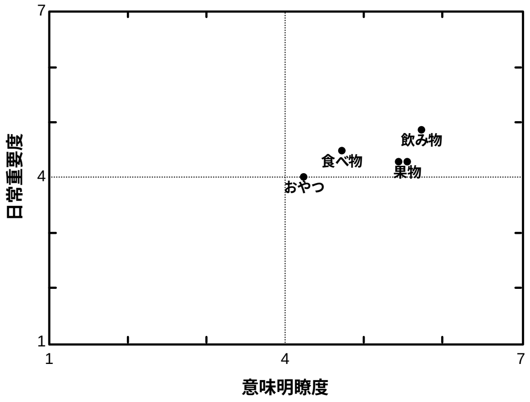


図 4 「食べ物」カテゴリー

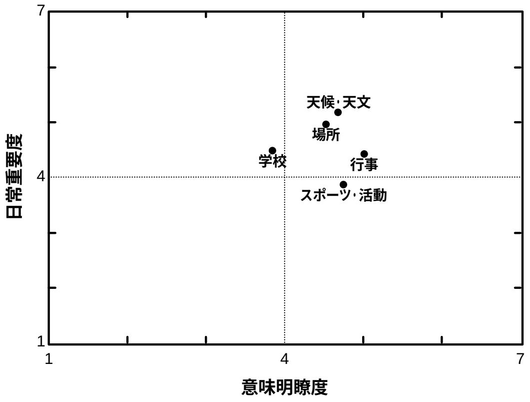


図 5 「場所，自然」カテゴリー

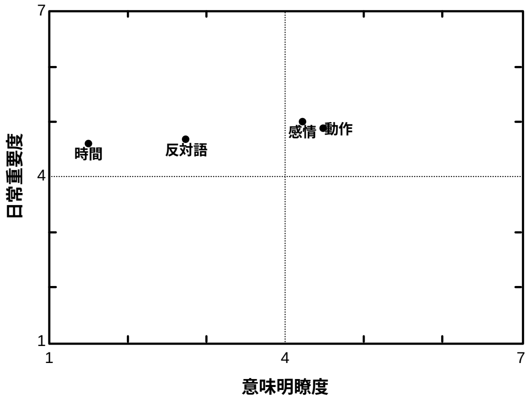


図 6 「動き，様子」カテゴリー

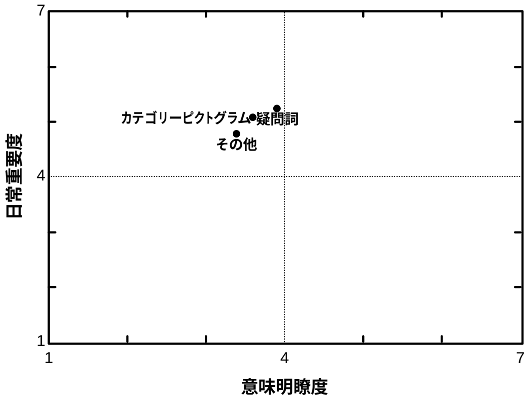


図 7 「その他」カテゴリー